第１学年　生活科 学習指導案

１　単元名

しあわせいっぱい　～みんなにこにこ～

２ 単元の目標

○家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え，自分の役割を積極的に果たすとともに，規則正しく健康に気を付けて生活できるようにする。

３　単元の評価規準

		生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
単元の 評価規準		家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて関心をもち，自分の役割を積極的に果たすとともに，規則正しく健康に気を付けて生活しようとしている。	家庭生活やそれを支えている家族のこと，自分でできることなどについて，自分なりに考えたり，工夫したり，振り返ったりして，それをすなおに表現している。	家庭生活を支えている家族のことが分かり，自分でできることに気付いている。
学習活動（次）における評価規準	１次 みんなにこにこ	①家族のことや家庭での自分の生活を見つめようとしている。	①家庭生活を振り返り，家族のことや自分のことについて考えている。	①自分でできることや自分の役割があることに気付いている。
	２次 にこにこだいさくせん	②家族のために自分でできることをしようとしている。	②自分でできることや家族が喜ぶことを見付け，家庭生活が楽しくなるように工夫している。	②家庭生活には，それぞれの果たしている仕事や役割があることに気付いている。 ③家族の大切さや自分が家族によって支えられていることに気付いている。
	３次 ふゆやすみにこにこだいさくせん	③家族の一員として，継続的に自分の役割を果たそうとしている。 ④生活リズムを大切にし，健康に気を付けて生活しようとしている。	③家庭生活をよりよくするために取り組んできたことを振り返ったり，交流したりしている。 ④家庭における自分の生活を見直している。	④規則正しく健康に生活することの大切さが分かっている。 ⑤家庭の温かさ，家族一人一人のよさに気付いている。

４　単元と指導の構想

（１）単元について

本単元は，学習指導要領解説「生活編」の内容（２）家庭と生活を受けて設定した。

> 内容（２）
> 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え，自分の役割を積極的に果たすとともに，規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。

本単元は，自分と自分を育ててくれる家族を対象とする。家族とともにしていることや家族にしてもらっていることなどを振り返り，家族のことや家庭生活における自分のこと，自分でできることなどについて考え，自分の役割を進んでできるようになることを目指している。また，家庭における自分の生活を見直し，規則正しく健康に気を付けて生活できるようになることも期待している。

本単元では，笑顔を表すことば「にこにこ」をキーワードに学習を構成する。まず，家で「にこにこ」する時の自分を思い出し，「にこにこ」が増えると嬉しいことに気付かせる。つぎに，家族の「にこにこ」を見付け，それを自分の「にこにこ」と関連付けて，家族の優しさや思い，大切さに気付かせる。そして，家族の「にこにこ」のために自分でできることを見付け，実際に活動する場を設定する。最後に，活動を振り返り，家族のよさに気付き感謝の気持ちを表現するとともに，役割を果たすことができるようになった自分に気付かせる。また，今後の自分の生活について考え，家族の一員としての自覚をもって生活することができるようにする。

（2）子どもの実態

○家庭生活への関心・意欲・態度について

入学して８ヶ月が経ち，子どもは学校生活に慣れ，できることが増えたことに自信をもっている。学校では，給食や掃除などの当番活動や係の仕事を進んで行っている。そして，それらのことを通し，自分中心に物事を考えがちだった子どもも，しだいに周りのことに目が向くようになってきた。

一方，家庭では，まだ家族に甘えて依存しがちな子どもが多い。お手伝いもしてはいるが，頼まれたから，褒めてもらえるから，やりたいから，できるようになって嬉しいからという自分本位の理由で，取り組んでいる子どもがほとんどである。

そこで，本単元では，家族の「にこにこ」を見付けさせることや，実際に家族のために活動したことを家族に認めてもらうことを通して，家族の役に立つことが嬉しいことや，自分の成長を家族が喜んでいることに気付かせたい。

○学び合いについて

伝え合い，交流することが気付きの質を高めることになると考え，１時間の授業の中に話し合ったり，情報交換をしたりする時間を必ず設けるようにしてきた。子どもは，自分が見付けたことや気付きを発表することに意欲的である。しかし，友達の話を自分の考えや気付きと関連付けて考えることは苦手である。

本単元では，まず，自分の見付けたことを発表する時間と場を十分に設け，自分の思いや願い，気付きを伝えたいという意欲を満足させたい。そして，その後，それらについて話し合う場を設け，互いのよさを認め受け入れる姿勢や態度を育てるとともに，一人一人の気付きの質を高めていくようにしたい。

（3）指導の構想

目指す子どもの姿

本単元での目指す子どもの姿を以下のように考えた。

・家族の温かさや家族の大切さに気付いている子 ・自分でできることや自分の役割を積極的に行う子

「家族の温かさや家族の大切さに気付いている」とは，例えば，

・自分や家族一人一人のよさに気付いている。
・家族で一緒に過ごすことの心地よさに気付いている。
・家族が自分のことを大切に思う気持ちに気付いている。

など，家族が自分を支え，はぐくんでくれていることに気付くことである。

「自分でできることや自分の役割を積極的に行う」とは，例えば，

・自分でできることを，楽しみながら行う。
・自分でできることを，見付け，増やしていく。
・家族のために，自分ができることをしたいと思う。

など，家庭生活の一員として自立した生活ができるようになることである。

指導の工夫

手立て１：活動と交流を繰り返し設定する

低学年の子どもは，具体的な活動や体験を通して学んでいく。子どもは，やってみることを通して，物事の特徴や仕組みに気付いたり，新たな問題を見付けたり，問題の解決方法を見付け出したりする。しかし，活動や体験をしただけでは，子どもは，自らの思いや気付きについて自覚することは難しい。

そこで，本単元では，「にこにこ」を探したり，「にこにこだいさくせん」を実行したりする活動と，一人一人の気付きを交流する場を繰り返し設定する。

子どもは，活動で得た思いや気付きを交流の場で伝えることで，自分の思いや気付きを自覚するとともに，友達の思いや気付きを共有する。そして，新たなめあてをもち再び活動に取り組むと，また新しい気付きを得ることができる。このような繰り返しにより，気付きの質を高めていくようにする。

活動においては，子どもが意欲をもって取り組むことができるよう，活動内容や活動期間に配慮する。

交流においては，子どもが自分の思いをきちんと伝えることができるように，発表や話し合いの形態を工夫するとともに，時間を十分にとる。教師は，話し合いをコーディネートして，一人一人の子どもがきちんと聴き合い，よさを認め合うことができるようにするとともに，ねらいの達成を図るようにする。

手立て２：学びの道筋の分かる学習ノートを用いる

本単元では，学習カードに自分や家族の「にこにこ」を集めてかいたり，実際に活動したことを記録したりする。そのカードを，まとめて『にこにこノート』に綴らせる。『にこにこノート』は，子ども一人一人の活動の記録であると同時に，子どもの思考の記録でもある。子どもは，『にこにこノート』にカードを綴りながら，家族の「にこにこ」をたくさん見付けたことを喜んだり，自分が行った「にこにこだいさくせん」が家族の「にこにこ」を増やしたこと，自分ができるようになったことがたくさんあることなどに気付いたりするだろう。単元の最後には，この『にこにこノート』を読み直し，自分の学びを見直すとともに，そこに今の自分の気持ちを書き加えることを通して，さらに今後の生活への意欲をもたせたい。

手立て３：家庭との連携を図る

本単元の活動は，家庭の協力が欠かせない。そこで，事前に学習のねらいや内容，方法などを知らせ，主旨を理解してもらうようにする。

具体的には，家族の「にこにこ」集めや「にこにこだいさくせん」で，子どもの頑張りをたのもしく思う気持ちや，子どもの成長を嬉しく思う気持ちを言葉や文章で伝えてもらうよう依頼する。また，この単元での取組を日常生活にも生かしていくことができるように協力をお願いする。

なお，子どもによって，家族構成や家庭生活の様子が異なるので，各家庭のプライバシーを尊重し，一人一人に対応した配慮をする。

５　単元の指導計画（全１２時間）

次（時数）	主な学習活動	評価規準	主な評価方法
１ みんな にこにこ （４）	〔１次の目標〕どんなときに自分や家族が「にこにこ」しているか考えることを通して，家族の「にこにこ」を増やしたいという意欲をもつことができる。		
	○身近にいる人の「にこにこ」を見て，「にこにこ」に興味をもつ。（１） ○自分が「にこにこ」している時について考える。（１） ○家族が「にこにこ」している時について考える（１）	関①家族のことや家庭での自分の生活を見つめようとしている。 思①家庭生活を振り返り，家族のことや自分のことについて考えている。	・つぶやきや，発言 ・学習カードや発言

	○家族の「にこにこ」するときを取材する。　＊家での活動 ○家族の「にこにこ」について分かったことや思ったことを交流し合う。（1） ＊本時４／１２	気①自分でできることや自分の役割があることに気付いている。	・学習カード
２ にこにこだいさくせん （4）	〔２次の目標〕「にこにこだいさくせん」を計画・実行し，そこで分かったことを表現することができる。		
	○１回目の「にこにこだいさくせん」の計画を立てる。（1） ○１回目の「にこにこだいさくせん」を行う。＊家での活動 ○１回目の「にこにこだいさくせん」について報告し合う。（1）	関②家族のために自分でできることをしようとしている。	・学習カードや発言
	○１回目の活動を見直し，２回目の計画を立てる。（1） ○２回目の「にこにこだいさくせん」を行う。＊家での活動	思②自分でできることや家族が喜ぶことを見付け，家庭生活が楽しくなるように工夫している。	・学習カードや発言
	○２回目の「にこにこだいさくせん」について報告し合う。（1）	気②家庭生活には，それぞれの果たしている仕事や役割があることに気付いている。 気③家族の大切さや自分が家族によって支えられていることに気付いている。	・学習カードや発言 ・学習カードや発言
３ ふゆやすみにこにこだいさくせん （4）	〔３次の目標〕「にこにこだいさくせん」を続けることを通して，自分のよさや家族のよさに気付くとともに，これからも「にこにこ」を増やしたいという意欲をもつことができる。		
	○「冬休みにこにこだいさくせん」の計画を立てる。（1） ○「冬休みにこにこだいさくせん」を行う。＊家での活動	関③家族の一員として，継続的に自分の役割を果たそうとしている。 関④生活リズムを大切にし，健康に気を付けて生活しようとしている。	・学習カードや，発言 ・学習カードや，発言
	○「冬休みにこにこだいさくせん」について報告し合う。（1）	思③家庭生活をよりよくするために取り組んできたことを振り返ったり，交流したりしている。	・学習カードや，発言
	○これまでの活動を振り返り，報告書を作成する。（1） ○報告書にまとめたことを紹介し合い，これからの生活について考える。（1）	思④家庭における自分の生活を見直している。 気④規則正しく健康に生活することの大切さが分かっている。 気⑤家庭の温かさ，家族一人一人の良さに気付いている。	・学習ノート ・学習ノートや，発言 ・学習ノートや，発言

６　本時の学習（指導全 12 時間，本時４時間目）

（１）本時のねらい

どんな時に家族が「にこにこ」するか紹介し合うことを通して，家族の一員として，家族の喜びのために，自分でできることがあることに気付くことができる。

（２）本時の構想

○前時までの学習

本時は，第１次「みんなにこにこ」の４時間目である。第１次では，１，２時間目に自分の「にこにこ」，３，４時間目に家族の「にこにこ」を学習する。

前時（３時間目）に，子どもは，家族一人一人がどのような時に「にこにこ」するのかを思い出す活動を行う。しかし，この段階では，単に自分たちがお手伝いをした時喜ぶと考えたり，いわゆる「いい子」になった時喜ぶと考えたりしているだけで，自分自身の成長や自立，家族の触れ合いも家族の喜びであることに気付いていない。

そこで，子どもに，「家族のにこにこは，まだたくさんあるに違いない」，「聞いてみないと本当かどうか分からない」と働き掛け，家庭で取材活動を行うこととする。家庭での取材期間を５日間とし，その間にたくさんの家族の「にこにこ」を集めさせる。子どもは，家族とのやりとりを楽しみながら取材活動に取り組み，自分が見付けた「にこにこ」を友達に紹介したいと意欲をもって本時に臨む。

○本時で目指す子どもの姿

家族の喜びのために，手伝いをする，自分のことを自分でする，家族が楽しくなることを工夫するなど，自分でできることがあることに気付いている。

○本時のねらいを達成するための具体的な手だて

手だて①　家庭との連携を図り，家庭での自分の生活を振り返る取材活動に取り組ませる

家族が「にこにこ」する場合として，次の３つのことに気付かせたい。

①お手伝いをする（食器を運ぶ，お風呂を洗うなど）
②自分のことを自分でする（身支度をする，一人で起きるなど）
③家族が楽しくなることをする（肩たたきをする，一緒に遊びふれ合うなど）

子どもは，「家族がにこにこする時」を考えると，お手伝いに目がいきがちである。取材活動でも，お手伝いのことを取り上げる子どもが多いと予想される。しかし，自分のことが自分でできるようになること（自立・成長）や家族が共に笑顔で過ごすこと（ふれ合い）も家族の大きな喜びであり，それらのことに気付かせることも，家庭生活の学習では大切である。

そこで，家庭での取材活動では，活動のねらい，内容，方法などを家庭に説明し，また，取材期間を５日間設け，家族の多様な喜びについて楽しく取材することができるようにする。

手だて②　家族の喜びを紹介し合い，家庭ではいろいろな家族の喜びがあることに気付かせる

前時の学習で，子どもは，「いえの人は，どんなときに『にこにこ』するのかな」と課題意識をもち，家族への取材活動を行っている。子どもは，知りたい，聞きたいという気持ちで家族とふれ合い，喜びを感じながら調べてきているので，それらについて友達や教師に聞いてもらいたいと願っている。

そこで，本時では，初めに家族の「にこにこ」紹介タイムを設け，家族の「にこにこ」を互いに紹介し合わせる。友達の家族の「にこにこ」を聞くことで，いろいろな家族の温かさや様々な喜びを感じ取らせたり，家族の喜びは多様であることに気付かせたりする。

紹介タイムでは，クラス半数ずつ，話し手と聞き手に分かれ，５分交代で紹介し合う。話し手は，取材した「にこにこ」カードをもとに話す。聞き手は，必ず感想を返すようにする。紹介タイムのや

り方やマナーについては，初めに確認する。

手だて③　家族が喜ぶ理由を考えさせる

紹介タイムの後，家族の「にこにこ」カードを，全体に紹介する活動を行う。

いくつか同じ場合（前述）のカードを紹介したところで，家族が喜ぶ理由を問う。子どもは，家族の様子を思い出し，その喜びについて深く考え，考えたことを交流し合う。そして，自分が学校や家で頑張っていることが家族の喜びと関係があり，家族の喜びを増やすために自分でできることがあることに気付いていく。

家族の「にこにこ」カードは，同じ場合（前述）ごとに紹介しながら黒板に貼り，家族の喜びにはいろいろな場合があることや，様々なその喜びの理由に気付かせる。また，たくさんの「にこにこ」カードを見て，子どもが，「にこにこがたくさんだと嬉しい」，「にこにこをもっと増やしたい」と感じ取っていくようにする。

最後に，「家の人の『にこにこ』をもっと増やすには，どうしたらよいか」を考えさせる。子どもは，黒板に貼られたたくさんの「にこにこ」カードを見ながら考え，自分でできることを見付けてワークシートに記入する。

（３）本時の展開と評価

学習内容・活動	主な教師の働きかけと子どもの反応	指導上の留意点と評価
1　家での取材活動の様子を思い出す。 (2 分)	T1　宿題で，家の人の「にこにこ」を集めましたね。たくさんの「にこにこ」を集めることができましたか。 ・たくさんあった。 ・「いっぱいあるよ」って話してくれた。 ・思っていたのと全然違った。	・学習課題**「いえの人のにこにこ　どんなとき」**を，黒板に貼っておく。
2　課題を確認し，取材してきたことを交流する。 (13 分)	T2　今日は，集めてきた，家の人の「にこにこ」をみんなで紹介し合って，いえの人はどんなときに「にこにこ」するのかを考えましょう。 T3　初めに，「にこにこやさん」を開いて，みんなの家の人の「にこにこ」のお話を聞き合いましょう。 ・ペアで，初めに「にこにこやさん」になる人とお客さんを決めましょう。 ・「にこにこやさん」は，お客さんがよく分かるように，ゆっくり丁寧に話してください。 ・お客さんは，お話を聞いて思ったことを，伝えてください。 ・いろいろなお店に行って，たくさんの「にこにこ」のお話を聞いてきてください。 ・どんな「にこにこ」を見付けたかよく聞いてくるのですよ。 【紹介タイム】 ・私のお母さんは，私が自分で学校のしたくをすると「にこにこ」になります。立派な一年生だねとほめてくれます。 ←ぼくのお母さんもほめてくれるよ。 ・ぼくのお父さんは，ぼくがお風呂を洗うと「にこにこ」になります。←お風呂洗いは大変そうだけどすごいね。 ・私のおじいちゃんは，肩をたたいてあげると「にこにこ」になります。←ぼくのお母さんも喜ぶよ。	・紹介タイムを「にこにこやさん」と名付け，楽しく紹介し合うことができるようにする。 ・活動内容，活動の場，注意点について，簡単に説明してから取り組ませる。 ・机を円形に並べ替えて，紹介しやすい場を作る。 ・前半後半に分かれ，５分交替で紹介させる。 ・ルールやマナーを守って紹介し合いができるように助言する。

3　取材して分かったことを全員で確認し合う。 (20分)	T4　今度は，みんなで，いえの人はどんなときに「にこにこ」するのかを考えましょう。 T5　どんなときに「にこにこ」するのかお話してください。 ＊お手伝いする ・ぼくのお母さんは，お茶碗を運ぶと「にこにこ」になります。 ・私のお母さんも，お茶碗運びをすると嬉しそうです。 ・ぼくのお母さんは，お風呂を洗うとにこにこします。 ・わたしも，お風呂を洗っています。 T6　お手伝いしてもらうと，家の人は，どうして嬉しいのかな。 ・お母さんだけやっていると疲れる。手伝うと楽。 ・みんなで働くと，早く終わる。ゆっくりできる。 ＊自分のことを自分でする ・おもちゃの後片付けを一生懸命したら，お母さんが「にこにこ」になりました。 ・宿題を遊びに行く前にちゃんとやると，「さすが１年生」とほめてくれます。 T7　みんなが後かたづけをしたり，宿題をきちんとしたりすると，家の人はどうして嬉しいのかな。 ・もう赤ちゃんじゃないなと思うのかな。 ・立派な一年生になったから嬉しいのかな。 ＊家族が楽しくなることをする ・おじいちゃんに肩たたきしてあげたら「にこにこ」になりました。 ・温泉に旅行に行ったらみんなが「にこにこ」でした。 T8　家の人は，どうして嬉しいのでしょうね。 ・ぼくが，やさしくしたから。 ・家族が一緒だから。みんな一緒だと楽しい。 T9　家族の「にこにこ」がたくさんあると嬉しいね。家族の「にこにこ」をもっと増やすにはどうしたらよいでしょう。 ・自分のことを自分で頑張るといい。 ・お手伝いをもっとする。 ・妹に優しくする。	・机を黒板を向いた配置に戻して話し合う。 ・お手伝いに関する「にこにこ」から紹介させ，黒板に貼っていく。(一番多く，理由も分かりやすいと予想されるため) ・似たような内容のカードは子どもに説明させず，教師が簡単に紹介して貼る。 ・大きく３つに分けてカードを貼り，「お手伝いする」，「自分のことを自分でする」，「家族が楽しくなることをする」とまとめて板書する。 ・家族が喜ぶ理由を問い，家の人の様子を思い出させ，家族の喜びについて深く考えさせる。(T6,T7,T8) ・全員のカードを貼り，黒板をたくさんの「にこにこ」で埋め尽くし，楽しく嬉しい雰囲気を作る。
4　家族の「にこにこ」をもっと増やすために自分でできることを考える。 (9分)	T10 家族の「にこにこ」もっと増やすために，「にこにこだいさくせん」をしましょう。あなたは，どんなことをやりたいですか。カードに書きましょう。理由も書いてください。 ・「一人で起きる」にチャレンジしてみようかな。一人でできるようになりたいな。そうしたら，お母さんがほめてくれるかな。 ・○ちゃんにやり方を聞いて，お風呂掃除をやってお母さんを喜ばせよう。	・ペアで話し合った後，数名に発表させる。 ・学習カードを配付して，記入させる。

	・おばあちゃんの肩たたきをしよう。おばあちゃんは，疲れているから，やってあげるときっと「にこにこ」になるよ。	評価 【気】家族の喜びのために，自分でできることがあることに気付いている。 ＊評価方法： 学習カードに次の 2 点が書かれているか見取る。 ①自分のやりたいこと ②①の理由が家族のためであること
5　次時の活動を知る。 （1 分）	T11 もっともっと家の人が「にこにこ」になるように，次の時間は，「にこにこだいさくせん」の計画を立てましょうね。 ・楽しみだなあ。「にこにこ」をもっともっと増やすぞ。	・「にこにこだいさくせん」と書いた提示物を貼り，次時への意欲付けをする。